

ミニ知識

デジャヴは若い人に多い?

年をとると、記憶の能力が衰えて、過去の記憶を思い出したり、デジャヴの経験自体を覚えておくことが苦手になります。また、年をとると新しい場所に出かけたり、初めての人と会ったりする回数も減ります。こうしたことから、デジャヴは若い人に多いと指摘されています。

デジャヴについて書かれた書籍

□1856年、イギリスの領主宅を訪れた作家ナサニエル・ホーソーンは、調理場に入った瞬間、不思議な印象を受け、63年の旅行記にこう記しました。

「私はかつて、この光景を見た、確かにそう感じたのである。……勝手知ったる祖母の美しい台所を見る時に感じるような、『そこを既に何度も訪れた事があるような感覚』を確かに感じただ」。しかし、ホーソーンはそこを訪れたことがありませんでした。

□「私は自分の足音に追われるのように、歩いて行った。私はふと前にも、私がこんな風に歩いていたことがあったと感じた。いつどこであったかは不明であるが、過去の不定な一瞬において、私はやはりこうして歩いていた」(大岡昇平著「野火」)
□前世の体験(生まれ変わり)としてのデジャヴは、輪廻転生をあつかった三島由紀夫の「奔馬」でも描かれています。

デジャヴを見ないようにできるの?

「似ているな」と思ったり、思い浮かぶという現象は自動的に起きるものなので、デジャヴを見ないようにすることはできません。

デジャヴの反対はジャメヴ

デジャヴとは反対に、見慣れたはずのものが未知のものに感じられることは「未視感」と言います。フランス語で「ジャメヴ」(jamais-vu)と呼ばれます。デジャヴに比べて、経験する人は少ない現象です。

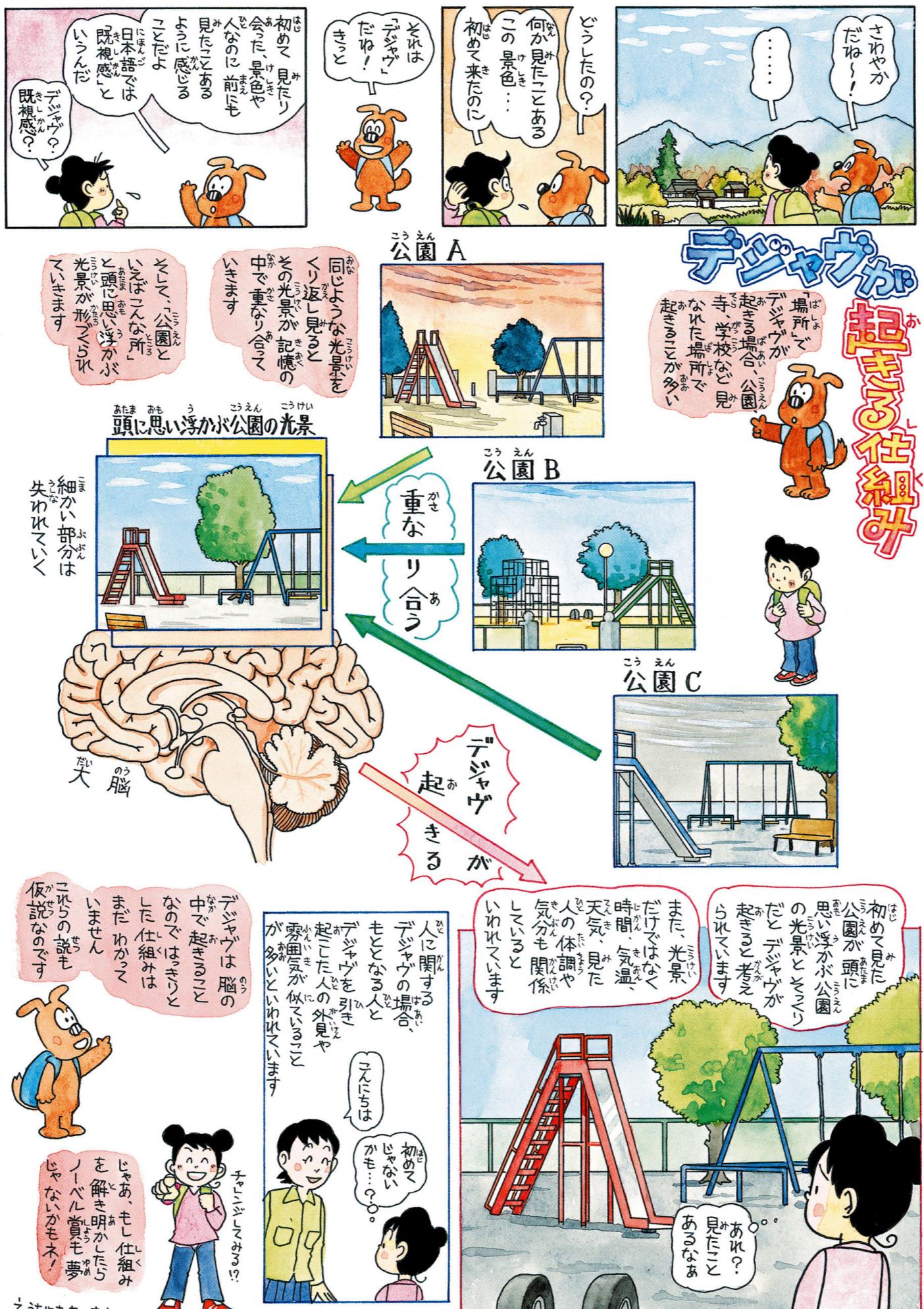
△お話を聞いたひだり京都大学院教育学研究科教授 楠見孝さん
△参考にした資料 「記憶・思考・脳」(新星社)

マンガで理科 きょうのなぜ? 全6巻が偕成社から好評発売中です

今後取り上げるテーマ

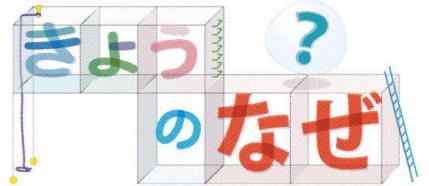
- どうしていびきをかくの?
- 携帯電話がつながる仕組み
- 羽田空港大解剖

*月の最終週はお休みします



初めてなのに知っている感覚

デジャヴって知っていますか。初めて行った場所なのに、前に来たことがあるような気がしたり、初めて会った人なのに、前に会ったことがあるような気がする不思議な感覚です。なぜ起きるのでしょうか。【井上志津】



「デジャヴ」(déjà-vu)はフランス語です。日本語で「既視感」と訳します。京都大学院教育学研究科の楠見孝教授による調査によると、デジャヴはある風景や人を見た時に見たことがある似た風景、あるいは似た人が思い浮かぶために起ります。「ここは初めて来た場所」「この人は初めて会った人」という認識が確かにあることが重要で、「知らないはずなのに知っている」と感じるズレが経験していました。それによると、63%が場所のデジャヴを、35%が人のデジャヴを経験していました。別の大学生103人に72%以上いました。別の大學生202人を対し、16の場所や場面をあげてデジャヴの経験があるかどうか尋ねたところ、3割以上の

人が並木道、古い町並み、公園、校舎、お寺などでデジャヴを経験していました。これらが場所の中で重なり合って、その光景が記憶の中で重なり合い、細かい部分は失われ、次第に典型的な光景として形作られます。例えば寺であれば、門から本堂まで続く石の階段がよく思い浮かぶでしょう。こうした記憶の中の典型的な光景が、初

めて目にした光景と似ていると、デジャヴが起きると考えられています。最近は会った人に関するデジャヴは、もととなる人が知っている程度の場合が多いそうです。最近は会っていない以前の同級生のようない例があまりあります。もともなる人とデジャヴを引き起こすことがあります。デジャヴは懐かしさを特徴としますが、これもデジャヴを経験した時の感情についても調べました。「びっくりする」「懐かしい」といった感覚が多かったそうです。デジャヴは懐かしさを特徴としますが、

前世の記憶ではない

デジャヴはこれまであまり科学的に研究されていませんでした。以前は「前世の記憶」として説明することがありました。なぜか見つけた人は、外見や雰囲気が似ていることがあります。前世の自分が体験したことのある気がするが、前世の自分が体験したことのないもので思い出せない、という説明であります。前世の記憶はできていませんでした。今は、心理学の実験でデジャヴを再現したり、アンケートやインタビューで経験を聞いたりするなどの研究が進められています。今後はデジャヴを脳のメカニズムで説明するといふ」と楠見さんは話しています。

場所や人で経験72%も